

天理スポーツ・オリンピック研究室ではこれまで天理スポーツに関する様々な企画を行ってきた。これまでの主たる企画は2000年～2009年の間、8回にわたって開催した『天理スポーツ・ギャラリー展』である。その企画趣旨は次のとおりである。

「天理教は、人間の身体は、親神さまからのかりものであるという教えに基づき、かりものである身体を通じて生かされている喜びを味合うため、スポーツに意を尽くしてきた。それは、今日『天理スポーツ』と呼ばれるものに育ってきた。これからは、教理とスポーツの関わり合いを学問化し、『天理スポーツ学』なる新たな学問領域の開拓を目指すと共に、『天理スポーツ』のこれまでの歴史的成果をまとめ、その体系化を通して、様々な栄光ある足跡を目に見える形で後世に伝える必要があると考える。このような主旨に基づいて、世界、または国内で輝かしい実績を残した先人たちの写真や記録映像、そして優勝杯、優勝盾や個人の優勝メダル、賞状、ゆかりのユニフォーム、実際に使用した用具、等を収集し、展示する機会を設けた次第である。」これまで柔道・ラグビー・野球・ホッケー・水泳・武道・球技・身体表現をテーマに、ほとんどの天理スポーツに関する種目を紹介してきた。さらに、『グローバル天理』においても各回の報告ならびに種目ごとの紹介も行った。

この全8回を一つの締めくくりとし、研究室として現在から未来へ向けて新しい企画を行う計画を考えていた。

しかしながら全8回で100%全ての種目を紹介できたとは言えないのである。そこで、『グローバル天理』で「天理スポーツ」をテーマに過去、現在、未来の天理スポーツについて連載する。

<過去>

現在は天理としてスポーツ競技に出場機会はないものの、ゴルフなど天理が各スポーツ競技に影響を与えた、あるいは与えている競技は数々ある。また、冬季種目についてはこれまで紹介がなかったが、過去に天理教体育大会冬季大会も行われている。冬季オリンピック大会にはボブスレーで天理大学OBも出場をしており、これらの競技種目を紹介しなければならないだろう。

『天理スポーツ・ギャラリー展』および『グローバル天理』に掲載したスポーツ展のページには様々な反響があり、展示の追加をお持ちいただいたり、当時の回想や訂正、情報の提供などがあつたりした。紹介しきれなかった種目の方々からは、是非、自分たちの行ってきた種目を扱ってほしいとの声も上がった。当時の様子を直接伝えていただけることは大変ありがたいことである。中には史実を変えるような貴重なものもあり、追々、このシリーズで紹介していこうと思う。

<現在・未来>

第1回の『天理スポーツ・ギャラリー展』から10年が経つ。ギャラリー展で展示を行った後、成長著しく、国内外でめざましい活躍を見せている種目がある。柔道でのオリンピック連覇・国際大会優勝、ラグビーでの全国高校選抜大会優勝・全国大学選手権出場・日本代表輩出、バスケットボール大学男子全国ベスト5など数多くある。この展示が一つのきっかけに・・・ということがあれば嬉しいのであるが、何よりも選手、スタッ

フ、関係者の努力のためのものである。展示後の活躍を随時、紹介していく予定である。

また、現在、天理で行われているスポーツについても紹介する予定である。障害者スポーツにおいては、天理で長年、障害者スポーツ大会が開催されており、大学の中にはアーチェリーでパラリンピックに出場し、世界で活躍している選手もいる。その他、各種大会や合宿等の受け入れも行っており、天理と障害者スポーツの関わりは深い。

各競技種目を紹介すると選手の活躍に注目しがちではあるが、天理では選手だけが活躍をしているわけではない。天理スポーツは指導者の育成にも力を入れている。

天理大学の授業科目「天理スポーツ学」では天理大学の創設者である天理教二代真柱様と人材育成についての講義も行っている。担当の一人である森井博之体育学部教授は自身の著書で以下のように述べている。

「二代真柱の天理学園における天理教精神に基づいた、個人一人ひとりに与えられた『徳分』を十分に伸ばし、その上で『心の成人』を目指すという『人造り』に共鳴して、信仰の有る無しにかかわらず多くの若者や指導者がスポーツをとおしてここ天理に集まってきた。そのことは、宗教の教えに裏打ちされたスポーツ選手の育成が、世界中の多くの人々に受け入れられるすばらしい『人材育成』であるという事の証であろう」

事実、オリンピックには天理大学から毎回、すぐれたアスリートを輩出しており、2008年には日本オリンピック委員会から天理大学に対して『トップアスリートサポート賞優秀団体賞』が贈られている。指導者としての人材育成のほか、裏方として各競技をサポートし、国内、世界で活躍をしている人材も育っている。バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会日本選手団団長、アジアサッカー連盟で国際試合等の運営の成否の鍵を握る総括として試合日の全てを担う重要な役割であるマッチコミッショナー、オリンピックや世界大会での審判、レフリーなど、その分野、役割は様々であるが多くの天理出身者が活躍をしている。そういった方々にもスポットを当て、これまでの<過去>を知り土台にして、<現在>を生かし、<未来>へ向けて天理スポーツの新しい形を見いだせたなら、と考える次第である。

[参考文献]

森井博之『天理大学創設者 中山正善 天理教二代真柱とスポーツ』三恵社、2007年



日本オリンピック委員会から贈られた『トップアスリートサポート賞優秀団体賞』のトロフィー 2008年11月